

令和6年度

事業計画書

社会福祉法人 登別千寿会

1. 社会福祉法人 登別千寿会 事業計画

◎法人 基本方針

『人間愛』を基調とした処遇に徹し、利用者の人格を尊重し、より家庭的な雰囲気の中で自由に生活することをモットーに、全職員一体となり“明るく健康的で、生き甲斐のある豊かな生活”の為、精神的ニーズの把握に努め、個々の特性をよく理解し、豊かな人間関係をすすめる処遇向上に努める。

【事業方針】

令和5年5月に、新型コロナウイルス感染症が5類相当に引き下げられましたが、新型コロナウイルス感染症の脅威は変わらず、特養緑風園では、令和5年1月と11月の2度、特養ニナルカの里では令和5年10月にクラスターを経験しました。新型コロナウイルス感染症の感染力はとても強く、特に高齢者である入所者が罹患した場合は、その後の体調変化、持病の悪化、ADLの減退など影響は大きく、入退所への影響が大きく、ショートステイの受け入れも中止せざるを得ない状況から稼働率の低下にも繋がります。

また、昨今の物価や水道光熱費の高騰の影響は、公定価格である介護報酬を収入の基本とする介護施設では、とても大きく、令和6年度の介護報酬改定では、特別養護老人ホームの報酬単価は増額となりましたが、まだまだ物価等の高騰の影響は経営に重くのしかかる事から、施設の空床期間の短縮、ショートステイやデイサービスの稼働率の向上、業務の効率化や介護職員の負担軽減のための業務改善や介護補助員の採用など、取り組むべき課題は多く、将来的に安定した経営を持続するために、感染症対策は徹底した中で、利用者及び家族、関係者に対するサービスの質の向上を目指すとともに、地域貢献にも積極的に取り組んでいき、地域に根ざしたサービスの提供を行ってまいります。

2. 特別養護老人ホーム緑風園 事業計画

◎介護老人福祉施設 定員：105名

◎(介護予防)短期入所生活介護事業所 定員：7名

【事業方針】

特養の入所稼働率98%以上を目指し、空床期間をなるべく短くし、新規入所者の迅速な調整と、在宅の特養待機者には、積極的にショートステイの利用を促進し、1日平均4名を目指す。

昨年2度の新型コロナのクラスターを経験し、罹患した入所者の体調の変化や状態の悪化が多く、入院や退所も多くなり、クラスター対応中は新規入所者やショートステイの一時休止が余儀なくされる為、入所時の抗原検査など、施設内にウイルスをもちこませない感染予防対策の徹底を行って参りたい。

職員の離職に採用が追いついておらず、特に介護職員の欠員が目立つため、介護補助員の採用など、現在いる介護職員の負担軽減を図るとともに、業務負担の軽減と業務改善に取り組んでいきたい。

『今年度目標』

- ・出来る限り空床を作らない様、新規入所者を10日以内に入所させる。
- ・ショートステイの利用者人数は、1日平均4名、1ヶ月の平均稼働率40%～60%を目指す。
- ・職員の離職防止や資質向上の職員教育に取り組みつつ、業務負担軽減・業務改善に取り組む
- ・感染対策の徹底の継続と入所時の検査の徹底

3. デイサービスセンター緑風園 事業計画

◎地域密着型通所介護 定員：18名

◎通所型サービスA 定員：7名

【事業方針】

要介護利用者の利用に重点を置き、要支援者の利用も含め、1日の利用人数16名平均を目指していく。

他事業所への営業を積極的に行い曜日別の空き情報の提供、デイサービス体験など積極的に行い、新規利用者獲得に繋げていき、欠席された利用者への振替利用の促しなどにより、稼働率の向上に繋げる。

利用者からの口コミや紹介で新規利用に繋がったケースもあるため、利用者から選ばれる事業所を目指し、サービスの質や魅力の向上、広報活動の一環として、家族通信のような広報誌を定期的に刊行していきます。

近隣市町村の事業所や入所施設で、新型コロナウイルスの感染やクラスターが多く発生しているため、当事業所においても利用者の検温等の体調確認、施設内消毒を徹底し、事業所内で感染者を出さないように感染対策を徹底していきます。

『今年度目標』

- ・1日の利用人数平均16名を目指し、居宅介護支援事業所・地域包括支援センターへの営業を積極的に行う。
- ・サービスの質や魅力の向上を目指す。家族通信のような広報誌を定期的に刊行していく。
- ・利用者の検温や体調確認、事業所内の消毒等の感染対策を徹底する。

4. 緑風園サテライト型特別養護老人ホーム ニナルカの里 事業計画

◎ユニット型地域密着型介護老人福祉施設 定員：29名

◎ユニット型(介護予防)短期入所生活介護事業所 定員：11名

【事業方針】

特養の入所稼働率98%以上を目指し、空床期間をなるべく短くし、新規入所者の迅速な調整と、在宅の特養待機者など、ショートステイの長期利用の利用者を積極的に確保し、緊急利用できる部屋を確保していることを最大限活用し、積極的にショートステイの利用を促進し、1日平均6名を目指す。令和5年度に、ニナルカの里でも看取り介護を行える環境を整備し、看取り介護を開始した。これまで看取り期にある利用者は、病院への転院となっていたが、施設で看取り介護を行えることで、病院への転院(退所)を最小限に減らし、住み慣れた場所での人生の最期に寄り添えることができるため、職員教育も含め、より良い看取り介護を行えるように取り組んでいく。

令和5年10月に新型コロナウイルス感染症のクラスターを経験し、感染症対策の重要性を痛感した。ショートステイ利用者が感染していたことにより、一つのユニットがクラスターとなったため、ショートステイや新規入所時の抗原検査等で、ウイルスを施設に持ち込ませないように感染対策を徹底し、感染症対策を引き続き取り組んでいく。

『今年度目標』

- ・入所者の平均介護度4.0以上を目指し、空床を作らないよう、待機者の状況を常に確認し、空床が出

来た際には10日以内の受け入れを目指す。

- ・ショートステイの1日平均利用者6名以上を目標とし、緊急ショートの積極的な受け入れを行うと共に、新規利用者の確保に努める。
- ・令和5年度より開始した看取り介護をより良くするため、職員教育に取り組んでいく。
- ・ウイルスを施設内にもちこませないよう入所時の検査等、感染対策を徹底する。

5. 緑風園居宅介護支援事業所 事業計画

【事業方針】

在宅の利用者の生活ニーズの把握に努め、効果的かつ実現可能な質の高い居宅サービス計画の作成に努めるとともに、利用者の医療ニーズが増加・多様化してきているため、医療機関との連携や多種職との協同が今まで以上に必要となってきたため、連携強化に努める。

入院時の認定結果が要介護であった利用者が退院後に要支援認定に移行されたり、ご夫婦世帯のどちらかが要支援認定で、ケアマネジメントの円滑化から地域包括支援センターから依頼をいただくケースが増えたことにより、要支援認定者の受持ち件数が増えているが、事業所としては、要介護認定者の件数を安定させ、質の高いケアマネジメントの実践の為、研修会等への積極的な参加、自己研鑽、関係各所との情報交換やネットワーク構築を図り、業務が円滑に進むように努めて参ります。

『今年度目標』

- ・要介護認定者の受持ち件数90件を目標とし、要支援認定者についても状況に応じて受け入れを行う。
- ・要介護認定者の件数を安定させ、質の高いケアマネジメントの実践を行う。